SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

総合技術研究会2017東京大学技術交流会参加報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中本, 順子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025275

総合技術研究会 2017 東京大学技術交流会参加報告

中本順子
技術部　教育支援部門

１．はじめに

平成 29 年 3 月 8 日(水)の午後、東京大学にて開催された「学生実験実習技術交流会（第 9 分野　実験・実習・社会貢献技術)」に参加したので報告する。

２．概要

技術交流会は「総合技術研究会 2017 東京大学」の参加者を対象に、各技術分野に関係する東京大学内の各施設で開催された。

開催された技術交流会は以下のとおりである。

第１技術分野　工作技術交流会
第３技術分野　FPGA 技術交流会
第６技術分野　農林技術交流会
第６技術分野　植物園技術交流会
第６技術分野　地震火山観測技術交流会
第６技術分野　臨海実験所技術交流会
第９技術分野　学生実験技術交流会
第 10 技術分野　歴史的建造物技術交流会

第９技術分野（学生実験技術交流会）は、駒場地区（前期課程（1・2 年生）学生実験技術交流会）と本郷地区（3 年生学生実験技術交流会）の 2 つの会場に分かれていた。私は 3 年生の実験担当が多いので本郷地区会場に参加させていただいた。
この交流会の見学スケジュールを表１に示す。

表１　学生実験実習技術交流会のスケジュール

3 月 8 日	13:30～14:00	受付
	14:00～14:30	理学部
	14:30～15:00	工学部
	15:00～15:30	農学部
	15:30～16:00	情報交流会

参加者は受付後、東京大学技術部スタッフの案内で各学部の学生実験室を順に見学した。スタッフは理学部（5 人）工学部（6 人）農学部（4 人）の技術職員で構成されており、各学部の担当者によって実験室への誘導及び説明が行われた。
参加者の内訳を表２に示す。

表２　参加者の内訳

大学等	人数（人）
国公立大学	17
私立大学	6
高等専門学校	1
合計	24

最初の見学場所である理学部では物理実験室と化学実験室を見学した。一つの実験室につき数分程度の見学時間しかなかったが、実験室や学部間の移動時間を利用して、歩きながら質疑応答や情報交換を行った。物理実験室で、教材開発に携わった技術職員から内容についての説明があった。理学部では実験・実習テキストの閲覧が許可された。

次の見学場所である工学部の化学工学実験室には、数十年以上に亘って使い続けている古い装置が多数あった。これらの装置は現在同じものがなく、熟練の技術職員が修理しながら大切に使用しているそうである。他に分析化学実験室、有機化学実験室、物理化学実験室を見学した。工学部では実験・実習テキストの提供があった。

最後の農学部では醸造実験室を見学した。学生実験に日本酒小仕込醸造実験を導入するまでには、役所の許可を得るために多大なご苦労があったとのことである。実験内容について 3 月 10 日に「総合技術研究会 2017 東京大学」にて口頭発表されている。農学部では実験日程小冊子の提供と日本酒の原料である米麹の試食があった。

3 つの学部の学生実験室を見学の後、参加者と東京大学技術部スタッフが最後の見学場所である農学部の会議室に集まり、情報交流会が行なわれた。見学コースにもなっていた農学部醸造実験の内容に関する DVD を鑑賞し、参加者全員が揃ったところで自己紹介及び各大学における学生実験の実態などについて情報交換を行なった。どの大学でも学生の技術力低下や予算面で苦労しているということが共通の話題としてあり、活発な意見交換、情報交流が行われた。

３．感想

開催地が交通の便が良い場所ということもあったようで、北は北海道から南は九州まで、全国各地から技術職員が集結した。また、これまで全く交流のなかった私立大学や高等専門学校の参加者とも情報交換する機会を得られたことで、新たな発見もあった。年齢や勤務地は様々であったが、質疑応答や意見交換などが活発に行われ、見学から最後の情報交流会まで常に活気のある技術交流会という印象であった。とりわけ、新任を含む若手の技術職員たちが非常に意欲的であり、その熱気が伝わってきて、私も大学に戻ってから早速今までの学生実験内容の見直しを行っている。

他大学の学生実験室見学や、学生実験という共通の職務を担う職員が一堂に会してディスカッションできたことは、私にとって貴重な経験となった。この交流会で得た知識を、より良い形で今後の業務に反映させていきたい。

また、若い技術職員には、このような他大学の施設見学や交流会があれば積極的に参加して刺激を受けてきてほしいと思う。

最後に、交流会参加の機会を与えてくださった静岡大学技術部の皆様に感謝いたします。